

議長 豊田

単編 10月 討論

(記録 小島)

東京

朝永: 戦争をせんでん防止の提案

東京で宿題として勉強は、勉強は主として

1) 前の話しに聞けし、軍縮の二つの面での決定をわは戦争せんでん禁止が口連で出た

その前は、184口委が出来たが、~~25日~~戦争せんでん防止(米)で一夜、委員会報告

25日に委員会一致、その内容は戦争のせんでんを禁止する主旨で6つのこと一致

1) 口人組合のけつぎのろかにすべての口で戦争についてのプロパガンダ、しりやく

と encourage するせんでんをやるべきではないということがせんでんしりやくに的を射した

2) 口のあつきの問題を解決するに戦争はつらくなる、またせんでんは不可変である

というべき

3) 口際、せんでんを解決するにはせんでんはやくい、若し generation にせんでん

のけつぎを教育

4) このことを実現する為には平和と友情をよめ、文化、科学、教育をきつめ

つめ、生きた教育は二つのサークル、そのうち一つは教育

5) すべての口でせんでん禁止の憲法の限界及び戦争せんでんを禁止する

べきことをプロパガンダにせよ

6) この方針をすべての口が支持するようまひかける

これが184口によひかえられ、賛成した

これはモラルのうごきである

明らかに見通しとせんでんが 29日にゾーリンが修正を求めた、そこで問題が政治的な

な、国防軍は侵略的主義である、伊豆の主義は戦争せんでん、ヨーロッパ

の口境変えをせよ、民を解放を支持、憲法でやるべき人々

口内法でせよ

そこでソ連はよこ車のようにある、これでは話しは合点にわさるにたつて

そこで、いって云つては口内の問題にこの口で議論せよ、これはさつぱり出て

来り、アメリカとしてはこの主旨で自分の口としてはやめて行くつもりだと云っている、その口

の口がこの案に同意する事は可能である、ソ連の11ヶ国もうけられる口はうけられる

ばあ、これをロンドン会議に生かしてみよう

小島(修): どうして一度賛成したのをうけ返すのか

朝永: よくわかんない、ソ連は平和を主張している

坂田: 日本は解雇の口が問題だ

田島: 日本を立憲化はせよ

田中: うつかりかえす前ではどうか

小島: 議論の自由だから立憲化はせよということはない

見

坂田: 本来対峙に在ることか、(対峙)に在る心配がある。

山田: 防衛に或る役立つといふ考えを防止すべきだろうか。

田中: 技術的困難の点、口によって立証し易いとしても、行てゐることも...

福島: 戦争の定義が、いかにある。

坂田: 社会主義口であり、資本主義口では逆になることもある。

報社

相対的解放軍をどう考へるか

山田:

福島: 軍縮が決定すれば役に立つか、逆に軍縮に役に立つか。

山田: ソ連の意向をきくことと生れる。

豊田: 10ヶ所のいき。

京都: 山田

シロードの113分の筆の批判 stable deterrence について、軍事、セリヤ(とき)
instrumental 以外、政治をきりほらして済ませる。
113分の筆

一般大衆のもつてゐるモラルをぬきにするには生れるか、三つに分けると

1) 無制限的 deterrence、~~核戦争~~ (冷戦)

2) partial control の deterrence

3) quasi stable deterrence (全面軍縮の一つのステップ)

1). technical 不進歩があるに際して競争が激化する。全面軍縮がなされる、勝ち抜くことが必要になるか。

ペンタゴン内では 若し trouble がおこるとき 基地をいかに、あるとソ連の脅威、
力より大きい力をアメリカが持つとき、~~アメリカ~~ ソ連はほうふくに出るという。
相手が合理的に行動することを前提にしている。しかし今までの

と云ふ、一定限度をいふと合理的にふるまふ。

坂田: 根本的制限ということか、

山田: control をいふということ。

全体として

2) ソ連は一定の戦略をもっているか、アメリカにはそれがない。全面軍縮でなく、
これをいふのは、軍縮をいふことのしほと、このいは人のしほ

trouble

8/4/12

- 大概
- 1) 戦争を止む 帝の主義をきいてやる力
 - 2) 戦争を止む現実的力 生産力
 - 3) 社会主義の勝利

全面軍縮 どのくらいかあるか とうりかあるかというアメリカ側の力の評価が出来る。

豊田: ブラケット論文でどういふ点に意味があるか

朝永: stableの意味が ブラケットと山田の stable の二つが違っているのか

山田: stable の二つ (実験の stable)

armed race の スタビリティ

戦争に ~~つづ~~ つづき、スタビリティ
つづきの

休けい

山田: 福島: ブラケット論文のソ連からしかたないことを認めなければならぬ

坂田: 小米の非対称性を指摘している。

小沼: ブラケットのみるより Bethe も第一に引き用いていることになっている。

谷川: U₂ についてセフと力ある説明がある。

大概: アメリカの立場がはつきりしない。

谷川: ブラケットでわかっていることはソ連が脅かすべき理由がわかる。

田中: 両方が minimum distance をもつのは直感的に入用である点がある点。

moral asymmetry がある。これは大切。

福島: 一おそれる分析はよからぬ、これから先の step が問題。

田中: 最近のアメリカの マクマスの 11ヶ年も問題、きけんを線に存している

朝永: アメリカの防衛のせいでの限界 ^{論文は}、空軍と他の11ヶ年をたいて2でわける
わけが分かる。(かしてその11ヶ年から11ヶ年が11ヶ年で両方をやっている)

大概: おいつめられざる頃のぐう戦争をどう考えるか

朝永: 日本のほうに 11ヶ年になつるとき どうなるか。

福島: 共産主義

朝永:

豊田: ブラケットは deterrence を容れにしている、~~これは~~ "リンク" に集中してきている。

山田: ~~これは~~

armed control

田中: real road の論文は min. distance が直感的に出来るくらいなら

全面軍縮のしからぬ。

田中: 山田: フラックツトでは物質的 motive force が生じている。

豊田: 中口の核武装についての見解は

大越: 中口が核戦力保有口にはいかに早くしてあるか、早くしと云っている。

豊田: フラックツトは米ソでやれと云うことだ。

大越: イギリスは nuclear race をやめると云う方がよいと云っている。

田中: イギリス本位の考えだ。

豊田: 非核武装地帯について。

山田: 非核武装地帯がベルトのようなら、核兵器がつかわれてくるかどうかは問題ではない。

坂田: 太平洋地帯の非核武装地帯をどうするか。

山田: 中口の非核武装とひきかえにアメリカがうけつかるはずだし。

豊田: 中口、日本の非核武装地帯はいいから。

福島: 自発的な非核武装地帯はいいから。

坂田: アメリカが中口の核武装のひきかえは違うのではないかと。

豊田: 吾々が生かすには日本およびその非核武装地帯をふりかき捨てることだ。

坂田: 太平洋地帯と非核武装地帯にしているのは意味があるのではないかと。

豊田: アンティ・コミューニズムについて。

山田: テンポラリーに stable をやぶるものとしての technical break down の心理的どうか。

豊田: フラックツト、Bethe は一致しているが、自然科学者以外の人にはどう思っているか、これを check する方向にむかう方がよい。

田中: 超高空の飛行機は break through のもんぞいとかんじている。

トコガ: (今夜ある)

朝永: 1000でよいという人があればという意味だ。1000は人道的人道主義で1842でせんせいと内容を正確に述べたものではないかと、それを中口の自主的にやるかという点でいいのではないかと。

小川: あらさかしのその完成は、フーバーの言葉であらわすようにしたものを云うはく。national group の発言が少い。平和教育を日本である程度やっているのか。

福島: 生かすに問題はない。moral のもんぞいとして生かすか、はじめる時で生かすか、に於ける。

朝永: 重

坂田: 口家持力で道徳をふりかき捨てるのは問題だ。

小川: 日本をつくれというなら、生かすか問題だ。

坂田: 基本法の方をものたすよ。

小川: もし直して、軍縮へおかしにしなければい。

小沼: うまく生かせるか?

三宅: 各日か declaration があるのはいいぞう。

小沼: 東と西の両方の確信をどう言わなければならないか?

朝水: 各日かばうばうにやるのはいいから、そのあと直後だから云々い。

谷川: 云々にはおぼろげに。

坂田: ロンドンせん云々のちから入れればよいと思え。

明日このもくろみをやさる。